

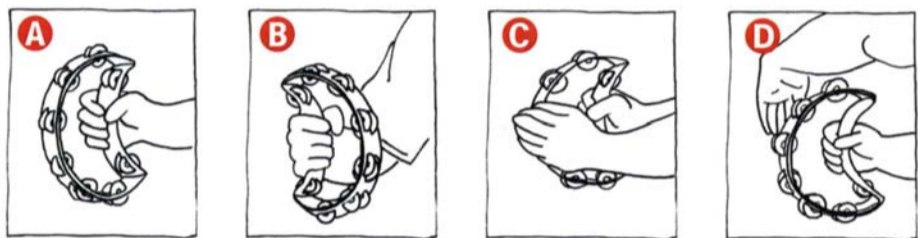
1. タンバリン

タンバリンは、世界中に古くから存在するジングル付きのフレームドラムです。インドのカンジラ、ブラジルのパンデーロもタンバリンの仲間です。この他にもヨーロッパから中近東、アメリカまで様々な形のタンバリンがあります。タンバリンは宗教的な場面、伝統的音楽、クラシック音楽で使われてきましたが、今ではポップス、ロック、R&B、ワールドミュージックといったジャンルでも幅広く使用されています。

歴史あるこのタンバリンは、26年前アメリカのリズムテック社によって新しく三日月型の現代的なモデルに発展しました。現代的な素材で、人工工学的にバランスが追究されたリズムテックタンバリンの出現により、スタジオやライブ環境下でのタンバリンのサウンド、パフォーマンス性は飛躍的に向上されました。

(1) タンバリンの奏法—前後に振る

右手にタンバリンを持って前後（右左）に振って、8ビートや16ビートを刻むのが、一般的なロックでの奏法です（図A→図B）。オンビートにアクセントをつけるときは、左方向に振ったときにタンバリンを左手に当てます（図C）。オフビートにアクセントをつけるときは、右方向にタンバリンを振るときに、カップフィンガーにした左手をクロスしてタンバリンの右側に当たるようにします（図D）。

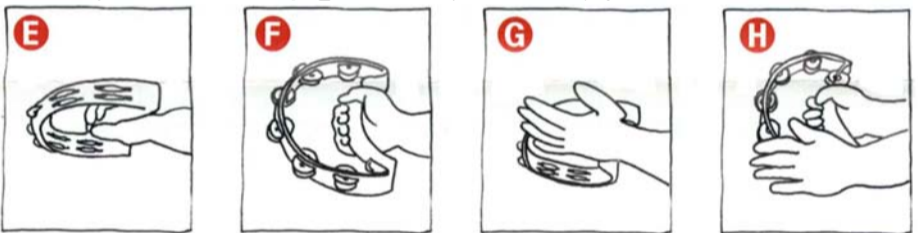


もう少し複雑な奏法として、タンバリンを軽く胸に当てて、オンビートのアクセントを1回もしくは複数回つける方法があります。この方法をとれば左手を使ったオフビートのアクセントも同時に無理なく行うことができます。

(2) “ドアノブ奏法”

全く違ったやり方で(1)と同じような音を出すこともできます。ドアノブを回すような動き

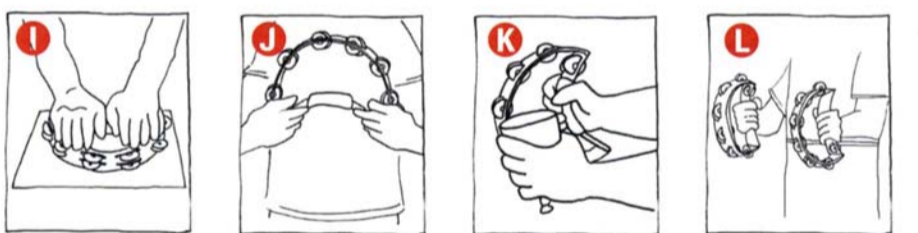
(左に回す=図E、右に回す=図F)で基本の8ビートや16ビートを刻みます。オンビートのアクセントは左回しのときに左手を図Gのように当て、オフビートのアクセントは右回しのときに左手を図Hのように当てます。



この“ドアノブ奏法”は、三連譜、シャッフル、テンポの速い曲などでもコントロールしやすく効果的です。

(3) クラシック、ワールドミュージックの奏法その他

ボーカルや他のパートのミュージシャンがポップスをするような基本的なタンバリンの叩き方をする人がドラマーやパーカッショニストでも殆どですが、クラシック音楽やその他伝統的音楽でヘッド付のタンバリンを叩く奏法をポップスにおけるヘッドレスのタンバリンに応用することができます。



・クラシックスタイル

テーブル、または膝の上にタンバリンを置いて、両手または両手に持ったスティックで複雑なリズムパターンを叩くことが可能です（図I）。また、左手で同じように水平にタンバリンをホールドして、右手でタンバリンのエッジを叩くこともできます。

・ワールドスタイル（図J）

タンバリンの下部を片手または両手で持って上下に振ります。この奏法によって、流れるような8ビート、三連譜、シャッフルが可能となります。

・奏法(1)の応用

左手にカウベルを持って（1）で説明した前後の動きでタンバリンを叩く。（図K）

＜ライブ・スタジオ演奏向き タンバリンの練習パターン＞

これまで紹介してきた奏法を以下の譜例で練習してみましょう。普通の速さで、倍速で、またはゆっくりなど、いろいろな速さで挑戦してみましょう。

タンバリン パターン1

タンバリン パターン2

タンバリン パターン3

タンバリン パターン4

タンバリン パターン5

タンバリン パターン6

タンバリン パターン7

タンバリン パターン8

タンバリン パターン9

タンバリン パターン10

タンバリン パターン11

タンバリン パターン12

2. カウベル、アゴゴベル、トライアングル

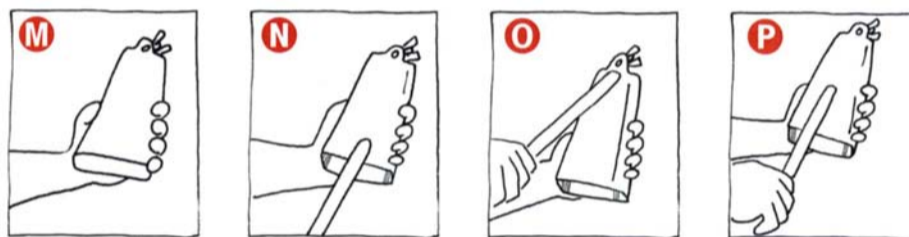
メタルパーカッションの仲間も世界中にたくさんあります。ベル・トライアングルには実に様々なサイズ、形、音色のものがあり、ロック、ポップス、フュージョン、R&B、カントリーミュージックなど様々なジャンルで、そしてスタジオやライブなど多くのシーンで使用され、サウンドに深みとフィーリングを加えています。

A. カウベル

(1) カウベルの奏法

アフロ・キューバン音楽で、ティンパレスにセットして使用されたり、手に持って独特なスタイルで演奏される印象が強いカウベルですが、ヨーロッパ、ブラジル、アフリカ音楽でも使用されます。

右利きのプレイヤーの場合、カウベルは左手に持ちます（図M）。開いた口の方向が下方へくるようにベルの中央部分をしっかりと握ります。この握った左手はマッフルの役目も果たします。強く握るか、弱く握るかによって音のサスティンが調節できます。（強く握る→短いサスティン音 弱く握る→長いサスティン）



太めの木製のドラムスティックを右手に持って叩きます。よりディープで大きな音を出す為に、木製のクラーベをスティック代わりにしたり、長さ15cm～20cm、太さ直径2cm位のカウベル専用スティックを好んで使うプレイヤーもいます。

カウベルは大きさに関係なく、叩くスポットによって3つの音色を出すことができます。下を向いている開いた口の端の部分を押すとカウベルの特徴的な低音が出ます（図N）。上部のベルの閉じた部分を叩くと高音が出ます（図O）。その中間部分を叩くと中間のピッチの音が出ます（図P）。演奏する音楽のスタイル、シチュエーションなどに合わせて、それぞれのピッチを単独で演奏したり組み合わせで演奏します。

スピードとコントロールを得るためには、基本のリズムパターンを練習することが必要ですが、更により速く、また異なるピッチの音を複雑に組み合わせで演奏する為には、上級者向けの「コツ」が必要です。カウベルを持つ左手の手首を少し回転させてベルの上下を動かしてみましょう。こうすることによって、より少ない右手の動きで、素早くスティックを叩きたいスポットにあてることができます。

(2) アドバイス

大音響の中でも充分目立つのがカウベルです。演奏時はこのカウベルの特性を常に意識して「やりすぎ」に注意しましょう。「過ぎたるは及ばざるが如し」です。またその他の小物パーカッションと同様にカウベルはソロ楽器ではありませんが、アンサンブル全体をサポートする役割を担っています。スタジオでもライブでも多くのシチュエーションで、カウベルが叩き続ける四分の1音符やアフタービートがあるだけで、サウンドに新鮮さ、グルーブにまとまりを与えることができます。

色々なサイズ、ピッチ、音色のベルを叩き比べて自分の音楽のスタイルに合ったカウベルを見つけましょう。一般的に言うと長さ5インチ程度の小さめのカウベル

＜ライブ・スタジオ演奏向き カウベルの練習パターン＞

以下の譜例はカウベルのスタンダードな基本練習です。低い音（ベルの開口部）はバーより下に、中間のピッチ（ベルの中央部）はバー上に、高い音（ベルの上部）はバーより上に音符で示しています。いろいろなテンポや強さで練習してみましょう

カウベル パターン1

カウベル パターン2

カウベル パターン3

カウベル パターン4

カウベル パターン5

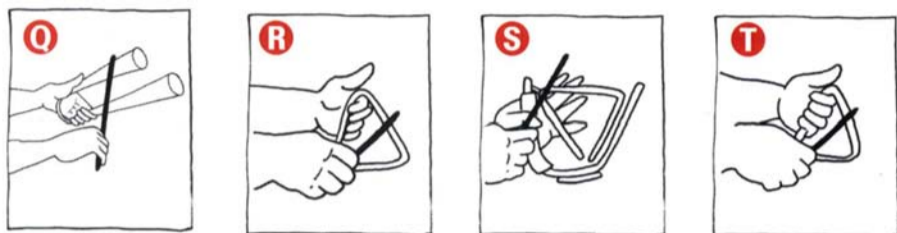
カウベル パターン6

カウベル パターン7

カウベル パターン8

B. アゴゴベル

カウベルの「いとこ」とも言うべき関係にあるのがブラジルのアゴゴベルです。アゴゴベルは2つ、もしくはそれ以上の円すい形の高めのピッチのベルがメタルの柄などで1つにつながっています。ブラジルのサンバ音楽に使われる楽器ですが、そのユニークなサウンドはその他のジャンルの音楽に使っても効果的で面白いでしょう。柄の部分を手で持ち、ティバレス用スティックのような細めの木製スティックやトライアングルのピーターで叩きます(図Q)。音と音との間に柄の部分を持って曲げて、ベル同士をぶつけてあてることもできます。これで音をミュートすると同時にベルが当たる「カチッ」というクリック音を出すこともできます。



C. トライアングル

トライアングルは、クラシック音楽にとどまらず多くの現代的な音楽ジャンルで一般的に使われています。ポップスでは図Rのように左手でその一辺を持ち親指でトップ部分のコーナーを固定して持ったり、図Sのリズムテックトリガートライアングル(RT6000)のような持ち手を利用します。どちらの方法でも右手に持った金属製のピーターでリズムを刻みます。このとき左手は手を握ったり離したりしてマuffledとオープン音をコントロールします。

<ライブ・スタジオ演奏向き アゴゴベル・トライアングルの練習パターン>

アゴゴベル譜例ではピッチの違いが表されています。

トライアングル4インチから7インチ以上の大きさのトライアングルで練習できます。パターン1からパターン3はトライアングルを外から打って演奏しますが、パターン4はトライアングルの中からコーナー部分を上下に素早く打って16分音符を刻

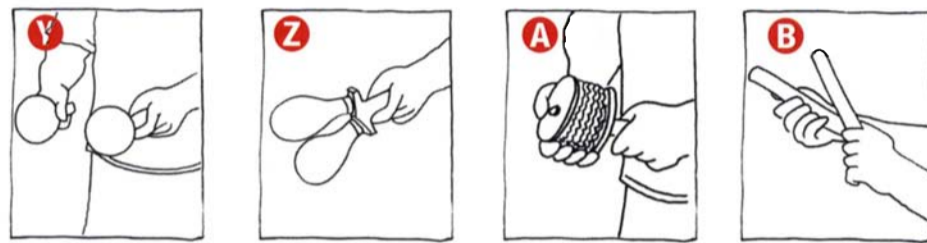
アゴゴベル パターン1 	アゴゴベル パターン2
トライアングル パターン1 	トライアングル パターン2
トライアングル パターン3 	トライアングル パターン4

C. カバサ

カバサは、アフリカの「シェケレ」、キューバの「アフォシェ」、ブラジルの「ヘコヘコ」、ハイハットシンバルの現代版ハイブリッド楽器と言えます。もともとなったシェケレ、アフォシェは中身をくりぬいたヒョウタンの表面にビーズや貝を通した網を張った楽器です。ヒョウタンを持った手でヒョウタンを前後に回す動きをし、もう一方の手は底部に置いてビーズをヒョウタンに押し付ける役割で、特徴的なスクラッチサウンドを出します。

同じようなサウンドはブラジルのヘコヘコやキューバのギロのギザギザの溝部分をスティックで擦っても得られます。現代楽器であるカバサは、ヒョウタンの代わりに表面加工したメタルのシリンダーを使い、ビーズや貝の代わりにひと繋がりになったメタルの玉を何列かシリンダーの周りにセットしたものです。伝統楽器に比べ、カバサでは音はより明るく、また一定の音を簡単に出すことができます。

基本的なカバサの奏法は、右手でハンドル部を握り、頭部(シリンダーのビーズ部分)を左手に置きます(図A')。左手で頭部を押し付けながら、右手を素早い動きで前後して回転させます。短い範囲で動かせば短い音、長い距離を動かせば長い音が



<ライブ・スタジオ演奏向き シェイカー・マラカス・カバサの練習パターン>

パターン1から4はシェイカー(1つでも両手に2つでも可)でもマラカスでもOKです。左右を順番に動かしても、同時の動きでもよいですし、カバサを使うなら均等な手首の前後の動きをします。アクセントをつけるときは短かく力を入れて動かします。いろんなテンポ、音の大きさで練習しましょう。カバサのパターン1はカバサに特長的な長い音と短い音のコンビネーションです。「+」は短い音、「○」は長い音

シェイカー/マラカス パターン1 	シェイカー/マラカス パターン2
シェイカー/マラカス パターン3 	シェイカー/マラカス パターン4
カバサ パターン1 	マラカス パターン1

3. シェイカー、マラカス、カバサ、クラベス

シェイカー、マラカス、カバサはいわゆる「がらがら」、振りもののパーカッションの系統に属します。これらは普遍的に世界中の多くの文化に見られる最古のパーカッションの一種です。これらの楽器のつくり、素材は様々に異なりますが、その素朴なフィーリングや、グループをサポートするサウンドの役割、比較的単純な奏法は共通のものであり、パーカッショニストのバッグには必携の楽器の一つと言えるでしょう。

A. シェイカー

ブラジルの「ガンザ」はシェイカーの一種で、様々な口径・長さのメタル製の缶やチューブに豆を詰めたものです。現代のシェイカーには、サイズ・ボディー・中身の素材も様々なものがあります。ボディーにはプラスチックやメタル素材の筒、中身は鳥の餌、シカ玉、豆、ビーズ等々があります。パーカッショニストの多くはこのように豊富な種類から自分にあったものを選び、演奏する曲のムードに合わせて使い分け



右手もしくは左手でシェイカーを下から持って、向こう側へ(図U)そして自分の方へ(図V)スムーズに動かして演奏します。アクセントをつけるときは手首の動きを素早くします。ライブやレコーディングでシェイカーを加えるのはとても効果的です。一つのシェイカーを両手で持っても(図W)、両手にそれぞれ一つづつ持っても(図X)OKです。両手を同時に動かす、または交互に動かすなど、その場に合わせた演奏します。

B. マラカス

マラカスはアニマルスキンや中身を取り除いたヒョウタンなどの袋状のものにビーズを詰めて木製の柄をつけた楽器で、キューバ、カリブ、北米、中南米の音楽で使われます。現在では人工素材が使用され、伝統的なマラカスと同じサウンドを持ちながらも耐久性のあるもの、ばらつきのないものが生産されています。マラカスの伝統的な奏法は、オーバーハンドグリップで柄の部分の両手に1本づつ握り、スネアドラムを叩くような要領で左右交互に振って音を鳴らす方法です。ただ

D. クラベス

スペイン語で「キー」の意味を持つ「クラベ(Clavé)」は、伝統的なキューバ、ブラジル音楽で基本となる2小節単位のリズムパターンを指すこともありますし、そのパターンを演奏する楽器自体のことを指すこともあります。(2本1組の楽器は「クラベス」と呼ばれます)また、このクラベのリズムは伝統音楽以外にも広く行き渡り、例えばロックでは「ボ・ディドリー・リズム」として知られています。

クラベのリズムを刻むには、リズムテックの人工素材を使った硬質で頑丈なスーパークラベス(RT8200)、ムーンブロック(RT3400、RT3400G)がおすすめです。またスネアのクロススティックのパターンを演奏したり(クラベスだけで、またはスネアのクロススティックと同時に打って倍の音量で)、クラベ・パターン以外を打つのも効果的です。

右利きのプレイヤーは、左手にクラベス1本を軽く持ち、もう1本を右手にしっかりと握ります。左手をしっかりと握らないのは、右で左を打ったときに十分に左に響く余地を残すためです(図R')。伝統的なクラベ・パターン以外に「ワールドミュー

クラベス パターン1
クラベス パターン2
クラベス パターン3



<http://www.y-m-t.co.jp/rhythmtech/>

【アドバイス】 小物パーカッションは、音楽全体をサポートし、サウンドに風合い・タッチを加えます。具体的には、ある一つのパーカッションを取り入れて全体にまとまりを与えたり、いくつかを組み合わせて音の層を重ねて厚みを持たせることができます。パーカッションは、歌の基礎になるリズムや、曲全体を通して続く一貫したリズムパターンを提供します。どの楽器をどのタイミングで演奏するかは、音楽を良く聴いて判断しましょう。プロ・パーカッショニストの経験則となっているのは「効果に疑問を持ったときにはそれを入れるのをやめておく」ということです。